

※開催概要について

この資料は、勉強会の議論の状況を迅速にお伝えするために、ファシリテーターがグループ討議の概要を発表した内容をまとめて整理したものです。個別の意見を示したものではありませんことをご了承ください。

沼津高架 PI プロジェクト

原地区第1回勉強会

開催概要

2月9日（土）、原地区にて第1回勉強会が開催されました。鉄道高架化や貨物駅の移転問題に関心のある団体等から推薦頂いた13名が参加した他、PIプロジェクトを監視・評価するPI委員会から委員2名が出席しました。

今回は原地区において初めての勉強会のため、最初にPI運営事務局から、鉄道高架事業の概要と進捗状況、PIに至るまでの原地区の近年の状況、沼津高架PIプロジェクトの目的やプロセス、勉強会の進め方等について説明がありました。

その後、原地区勉強会においても中立的な第三者的立場で進行を行うファシリテーターに会議運営を一任し、前半・後半に分けてグループ毎に意見交換を行いました。

前半の進め方についての議論では、若者や女性など多様な人々に関心を持ってもらいたい、事業に賛成反対ということではなく地域づくりについて話し合いたいといった期待や、市も参加すべきではないか、勉強会の到達点は既に決まっているのではないかと、といった進め方への懸念が出されました。

後半の地域づくりの目標に関する議論では、これまでに寄せられている原地区の地域づくりの目標を材料に、「暮らし」「交流」「産業・雇用」「交通」「防災」の観点から意見交換が行われました。

「暮らし」については、ただ静かにのんびり暮らすということではなく、積極的に対策を講じて地域の活性化を進めていくべき点で共通の認識が示されました。また、生き物が暮らす場所と人が暮らす場所との住み分けが必要だといった意見も出されました。

「交流」については、スマートインター等の整備の機会を活かし、原地区とこれらをつないで他地域とのネットワークを考える事が必要だというアイデアや、「産業・雇用」を促進する観点からは、山側は地盤が良く産業施設の誘致も良いかもしれないが、海側ではまず地盤の悪さを克服すべきこと、工場誘致ではなく寺町などの観光資源を活かした地域おこしが必要といった意見が出され、地域を観光客が散策してお土産を購入するといったイメージや、都市部と連携した体験農業や市民農園などのアイデアも出されました。

「交通」面では、原地区内の南北交通の不便さや東西交通の渋滞など、交通ネットワーク上の課題とともに、車に乗らない人や子育て世代にとっても暮らしやすいまちづくりが必要との意見もありました。

「防災」については、津波対策だけでなく、産業・雇用関連でも出されていましたが住民にとっては放水路の整備や液状化対策が優先課題だといった意見が出されました。

閉会の前には同席されたPI委員から、参加者の郷土に対する熱い想いを強く感じたことや、若い人や女性などにも議論の輪を広げるといった視点を大切にしてほしいことなどをお話いただいた他、傍聴者への配慮などの運営上の指摘がありました。

次回（3月9日（土））は、引き続き地域づくりの目標を話し合い、さらに広域的な視点についても検討する予定です。